



令和 6 年 9 月 3 日
第 3 号
秦野市立西中学校
秦野市柳町 2-5-1

今の私（たち）にできることは…

～ 広島平和記念式典での「平和への誓い」をうけて ～

「36℃、37℃、38℃、39℃…」

連日、テレビの天気予報を見ていると、画面に表示されている、異常とも思える各地の予想最高気温を目にするだけでもうぐったり ☹️ そんな日が続いた今年の夏休みを終え、いよいよ8月29日（木）2学期がスタートしました。

始業式では、今年で79回目の原爆の日を迎えた広島市の平和記念式典で、広島市の小学6年生が読み上げた『平和への誓い』について、子どもたちに話をしました。

以下、始業式で子どもたちに話した内容です。

8月6日、今年で被爆から79年の原爆の日を迎えた広島市の平和記念式典が行われました。テレビでは『平和への誓い』を力強く語りかける広島市の小学6年生の姿が映し出されていました。ここにその時の動画があります。聞いた人もいるかも知れませんが、ぜひ自分のこととして聞いてください。

平和への誓い（動画）

『目を閉じて想像してください。緑豊かで美しいまち。人々にぎわう商店街。まちにあふれるたくさんの笑顔。79年前の広島には、今と変わらない色鮮やかな日常がありました。』

昭和20年（1945年）8月6日午前8時15分。「ドーン!」という鼓膜が破れるほどの大きな音。立ち昇る黒味がかった朱色の雲。人も草木も焼かれ、助けを求める声と絶望の涙で、まちは埋め尽くされました。ある被爆者は言います。あの時の広島は「地獄」だったと。原子爆弾は、色鮮やかな日常を奪い、広島を灰色の世界へと変えてしまったのです。

被爆者である私の曾祖母は、当時の様子を語ろうとはしませんでした。言葉にすることさえつらく悲しい記憶は、79年経った今でも多くの被爆者を苦しめています。

今もなお、世界では戦争が続いています。79年前と同じように、生きたくても生きることができなかった人たち、明日を共に過ごすはずだった人を失った人たちが、この世界のどこかにいるのです。本当にこのままでよいのでしょうか。

願うだけでは、平和はおとずれません。色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たちです。

一人一人が相手の話をよく聞くこと。「違い」を「良さ」と捉え、自分の考えを見直すこと。仲間と協力し、一つのことを成し遂げること。私たちにもできる平和への一歩です。（後略）

最近、『多様性』とか『ダイバーシティ』という言葉に耳にすることがよくあります。これは、「人種や性別、宗教、価値観などが異なる様々な属性を尊重する」という考え方です。この『価値観』という視点でみても、私たちのまわりにも様々な『価値観』『考え方』を持っている人がいます。比較的自分と同じ『価値観』『考え方』の人、自分とはちょっと違った『価値観』『考え方』を持っている人、まったく正反対の『価値観』『考え方』を持っている人…。でも、それってとても当たり前のことで、問題はその人たちと「どうやって付き合っていくか」「どうやって関係を築いていくか」ではないでしょうか。この問いに、『平和への誓い』では、答えにつながる明確なヒントを示してくれているのです。

明日からとは言わず、今からこの『平和への誓い』をかみしめながら、自分にできることから始めてほしいと願っています。

ぜひ、ご家庭でも話題にしてみてください。

また、昨年夏休みの『親子ひろしま訪問団』に参加した西中生が、広島市から『被爆アオギリ二世』の苗木を譲り受け、南門脇



の花壇に植樹しました。この『被爆アオギリ二世』は、広島に投下された原子爆弾によって被爆したアオギリが焦土の中で再び青々と芽吹いたもので、多くの人々に生きる希望を与えました。植樹から寒い冬を乗り越え、今夏たくましい幹に育ち、大きな葉をつけてくれました！

